

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年 2月 12日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

看護職が地域をつなぐ@横浜

活動団体名： 横浜掖済会病院

活動者（助成申請者）名： 平野 和恵

1. 活動の内容・実施経過

○第1回研修会

- ・名称 みんなで地域連携 ～ゆるく看護を語り合おう～ 「入退院支援」
- ・テーマ 入退院支援に関する現場の課題や介入の工夫について
- ・日時 平成2年10月24日(土)10時～12時
- ・会場 ZOOMによるインターネットを用いた研修会
- ・講師：森川真理さん(家族支援専門看護師)
- ・参加者 22名(うち当日欠席者1名)
- ・内容 10:05～10:50 講義
11:00～11:45 グループディスカッション 質疑応答
11:45～12:00 全体意見交換 まとめ

参加者の中で当時 ZOOM を介した研修会経験がなかった方がいたので、研修会以前に通信テストを行って当日に備えた。当日も当初接続困難者がいたが、委託業者の協力のもと参加いただけた。また 後半のグループディスカッション時間帯に途中退室者が多かったため、グループ編成に配慮を要した。

○第2回研修会

- ・名称 みんなで地域連携 ～ゆるく看護を語り合おう～ 「コロナ禍の看看連携」
- ・テーマ 現場の工夫や困りごとを共有しよう
- ・日時 平成3年1月23日(土)10時～12時
- ・会場 ZOOMによるインターネットを用いた研修会
- ・講師(話題提供者) 石渡未来さん(家族支援専門看護師)、豊田好美さん(訪問看護認定看護師)
- ・参加者 16名(うち当日欠席者1名)
- ・内容 10:05～10:50 話題提供者から
11:00～11:30 グループディスカッション
11:30～12:00 全体意見交換

話題提供者のうち1名が、当日参加困難なことが事前に判明したため、委託業者の協力のもと担当講師分の講義を事前に録画し、当日運営に備えた。当日はトラブルなく開催できた。

2. 活動の成果

○アンケート結果

●第1回

1. 研修内容に関する意見

- ・研修ありがとうございました。日々の悩みは、県を超えても同じなのだと安心する一方で、いかにここから脱するかを考える一助になりました。今後も、研修に参加させていただき、学ばせていただきたいと思います。
- ・お疲れ様でした。
- ・家族の核家族化や多様化のなかで入退院支援をおこなう日頃の困難感を抱えていました。今回参加させていただき、講義やグループワークのなかで解決に繋がるヒントがあり、今後の現場に繋げていきたいと思いました。
- ・急遽仕事が入ってしまったため、参加できず残念でした。事前資料だけでもとても勉強になりました。ありがとうございました。

・現在の急性期病院における病棟看護師、退院支援看護師の役割がはっきりと分かれているなど現状を知ることが出来ました。今後、訪問看護師として連携していくときにこの研修で知ったことを踏まえて退院時共同指導や在宅での様子を知らせる入院時サマリーに反映できればと思います。ご講演ありがとうございました。

・急性期病院の様そのものを的確に表現して頂き、改めて問題点を再確認することが出来ました。改善するのは至難ですが、頑張りたいと思います。

・本日は研修講義をありがとうございました。笹川財団のHPで前日？当日？夜中に申し込みしましたが、参加させて頂き感謝しております。私自身は、普段手術室に勤務しておりますが、患者、家族への看護継続をどのようにしていくか、急性期病院としての現状や取り組みについての継続ポイントとなる時期等の講義を受け、入退院支援の理解が進みました。本日は急な参加につき、息子の高校説明会に向かわなければならず、グループワークの最後まで参加できませんでしたが、次回も楽しみにしております。本日は聴講させて頂きありがとうございました！

・先生の講義でありましたように、入院前患者からできる限り早期在宅復帰を目標に、スクリーニングシアセスメントするのは、情報が少ないと容易ではないと思います。手術など外科も含めた医療のことが分からないと早期アセスメントもしにくいし、院内外に限らず職種、立場の違いによって衝突しやすいことも似ているなどと思いました。機能が細分化されて専門性が発揮されて良い部分もある反面、業務の押し付け合いになりやすいこともあるので、いかにチームワークがとれるかがポイントかなとも振り返りました。家族支援専門看護師さんの講義をきける機会がなかったので、新鮮でしたし自身の学びになりました。がん専門病院で入退院支援加算1をめざすことは人員確保やシステム化の面でも大変なことが多いですが、何かもし、入院前支援の視点でも、アドバイス等があればうれしいです。

・病院の看護師の現状はよくわかりました。しかし、今後の課題や対策などの意見が欲しかった。それぞれ事情のある中で、やるべきことを覚悟をもってするしかないのだと思います。病院との連携の課題は、数年前から変わっていないような気がしました。グループワークでは、緩く語り合えたのは良かったけれど、少し不完全な感じがしました。

・病院内の事情がわかる講義でした。個別にはやれること、やれないことがあると思われませんが、看護職がお互いの立場を理解して(目くじら立てず)退院する利用者さまへの支援につながるとういと感じました。(看護情報に必要な情報がなかったのなら、お願いして教えてもらえばいいじゃない？の気持ち。それは病院内だけでなく、在宅側にも同様だと思います。勇気をだして一歩踏み込むのも必要ですよ)

・普段働いている中で感じている課題が、講義を受けてより明確になりました。病院のシステムや入退院支援の課題に対して同じ認識を持ち、課題に取り組んでいることを知ることが出来たのも、実戦で頑張ることが出来そうです。講義後の意見交換では、それぞれの立場からの生の声を聴くことができました。2時間の研修時間はあっという間で、とても有意義でした。ありがとうございました。

2. 次回研修会に関する希望やテーマ

・事例検討会、成功事例発表 入退院支援を円滑に進めるための各箇所での工夫の発表などの情報共有

・看取りの場所・方法などに関する意思決定支援

・症例検討や病棟看護師・外来看護師に入退院支援の必要性を感じてもらえるためのきっかけ作りを教えてもらえると嬉しいです。

・もし録画などで視聴できればありがたいのですが、

・訪問看護師としてかわり始めるのは退院時等がまだまだ多い状況です。研修の中でもありましたがそれぞれの役割がはっきりと分かれています。病院、地域で求める情報も違ってくるのでした。そうした中で病棟で働く看護師、退院調整にかかわる看護師、それぞれが求める情報は違ってくると思います。そうした情報について具体的にはどういったものが必要なのか？また情報を提供する際の窓口は退院支援センターになるのでしょうかなど話を聞いてみたいと感じます。私は途中退席してしまいましたので後半のプログラムでそのような内容があったなら申し訳ありません。

・地域で、あそこなら頑張ってくれると思うところと、そうでないところがあります。(訪看、訪問診療) 頑張ってくれるところを増やすには、どうしたらいいでしょうか。頑張ってくれる

が、上手く表現できませんが。

- ・終末期の ACP について。患者さんとどのように話のきっかけを作っていますか？

●第2回

1. 研修内容に関する意見

・今回はありがとうございました。コロナ禍での退院調整で、病院側から送り出す不安もありましたが、地域からのウェルカムな発言に救われた思いでした。今後は、訪問看護ステーションの得意分野や関わりの少ない病態や処置などを確認し、何をどのように情報共有すれば良いかなどを意識したいと思いました。講師の皆様、ファシリテーターの豊田様、運営の方々、本日はありがとうございました。また機会がありましたら参加したいと思います。

・この度は、貴重な機会をつくってくださりありがとうございました。この状況でも前向きに看護に取り組まれている参加者の皆さまの姿を感じ、鬱々となるコロナ禍で前向きに頑張ろうと励みになりました。また機会があれば参加させていただきたいです。ご多忙の中、研修の開催をしてくださりありがとうございました。

・次回も楽しみにしております。

・また、ゆるく語り合える場を企画して欲しいです。貴重な時間をありがとうございました。

・区役所等の行政主体の研修では、杓子行事なところが多く、現状が理解できた。

・COVID-19の大変な時に、様々な医療の場で働かれている看護師さんの声がきけてとても勇気づけられました。このような研修を企画していただき、誠にありがとうございました。

・今後も病院との連携を行う上で、このような企画を継続していただけたら嬉しいです。より良い退院支援ができるように、成功事例や見直しを積み重ねていきたいです。講師の先生、事務局様、ありがとうございました。

3. 今後の課題

・アンケート結果より

研修会開催に対して、肯定的な意見を多くいただいた。また、専門看護師や認定看護師の講義や実際の話を提供できたこと、それに関する参加者同士の意見交換の場がもてたことは有効だったと考える。また、症例検討会形式や ACP に関する研修会の希望も複数あった。一方で、グループワークのゴールが不明確であったことの指摘も受けた。参加者から今後開催希望する研修会のテーマ等もいただいているので、今後は、進行も含めてプログラム内容を吟味しながら、継続できる形態を検討したいと考える。

・運営方法について

今回、申請当初は、対面式研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染対策として、開催形式の変更を検討した。幸い、日頃よりインターネットを用いて研修会を開催している専門業者に協力を得ることができ、ほぼ当初の予定通りの研修会を開催することができた。今後も、集合形式以外の研修会を開催する場合、今回のように他業種の方の協力が必要になると考えられる。

・広報について

各回とも研修会開催約 1 か月前に広報を開始したが、メールやインターネット経由の広報となったため、2 回とも申し込み定員には至らなかった。また、主催や後援に活動者の所属施設や既存組織の協力を得るまでには至らなかったため、参加者増に結びつかなかった可能性も否めない。今後は、地域関連団体への協力依頼等も計画的に行う必要性もあると考えられる。

・参加対象者について

今回は所属が異なる地域を限定しない参加者を対象とする研修会とし、参加者の発言の安全を保障するために、職種を看護職に限定した。今後は多様な視点からの意見交換を期待するには、テーマに関心のある多職種が参加できる研修会も試みると望ましいと考える。

・その他

計画当初は事例検討主体の研修会開催を検討していたが、コロナ禍での開催となったため、インターネットを介し、短時間の開催形態に変更した。限られた時間と環境下での開催ではあったが、各職場で活躍する看護職の実践の様子を共有する機会となった。

また、今回の各講師とは、活動期間中一度も直接対面できず、すべてインターネットを介しての準備や運営であった。講師陣とは以前に面識はあったものの、直接存じ上げない参加者の方もいた。その中で混乱やトラブルなく開催できたのは、限られた時間の中で、今回の活動主旨に快く賛同し、参加者間で「ゆるく看護を語る」をキーワードにし、上下や利害関係なく互いを尊重する姿勢が各参加者同士で備わっていたからだと考えられる。

4. 活動の成果等の公表予定

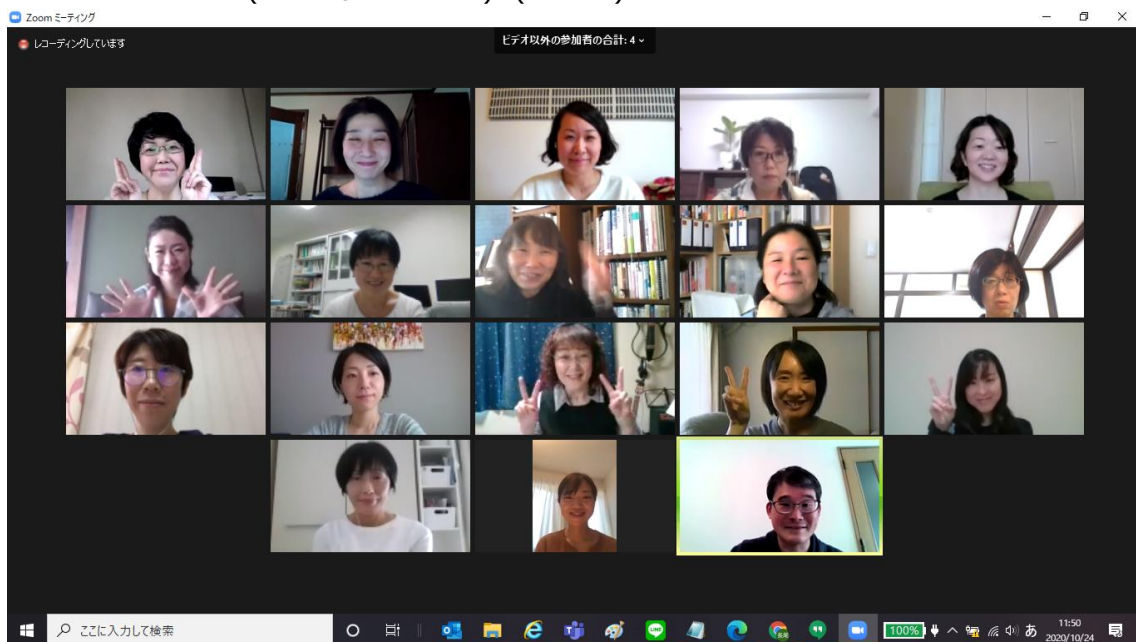
なし

5. 謝辞

今回の活動にあたり、助成いただきました公益財団法人笹川保健財団、参加者のみなさまに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

添付資料

・研修会参加者写真(参加者撮影許可済) (第 1 回)

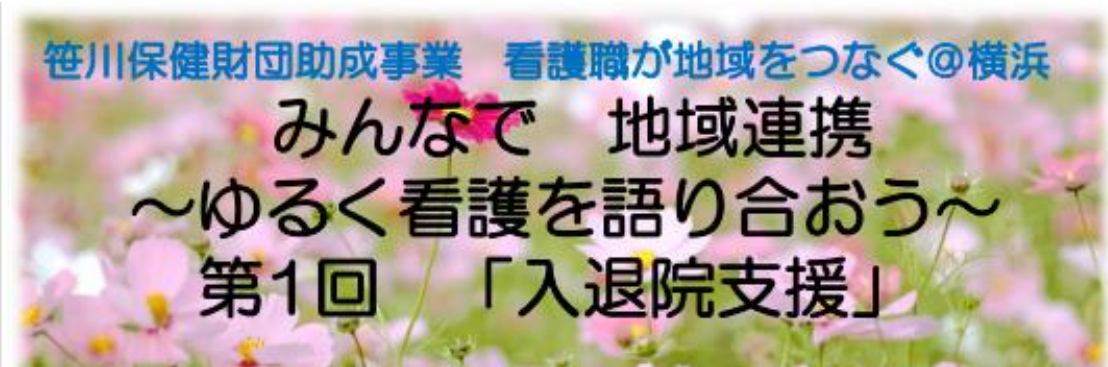


(第 2 回)



・研修会チラシ 2種 (以下)

第1回研修会チラシ



2020年10月24日(土) 10~12時 開場:9:30

講師: 森川 真理 さん 家族支援専門看護師

横浜市立大学附属病院 患者サポートセンター

入退院支援加算、退院前共同指導、介護支援連携指導、部署や施設を越えた看護職間の連携が求められています。

今回は、「入退院支援」に関する現場の課題や介入の工夫について、参加者同士で意見交換を行います。初めてZOOMを使う方も、事前に使用法を案内します。みなさまのご参加を、お待ちしております！

開催概要: 10:05~10:50 講義

11:00~11:45 質疑応答

テーマ: 「入退院支援に関する現場の課題や介入の工夫について」

内容: 最近の急性期病院の現場と入退院支援に関する流れ
支援が必要な療養者と家族へのアクセス
医療者のコミュニケーションに関する課題

会場: ZOOM (PC,スマホでの参加可能)

対象: 病院看護師・訪問看護師・看護教員・看護職の方

参加費: 無料

定員: 25名 先着順 要事前申し込み

申込先: 下記よりURLもしくはQRコードにて申込下さい。

申込

URL

<http://ur2.link/0yEI>



主催: ゆるく看護を語る会

共催: たねまき7

問合せ先: 080-1152-7194 平野

khirano54@gmail.com



Supported by
SASAKAWA
Health Foundation

第2回研修会チラシ

笹川保健財団助成事業 看護職が地域をつなぐ@横浜

みんなで 地域連携
～ゆるく看護を語り合おう～
第2回「コロナ禍の看看連携」

2021年1月23日(土)10～12時 開場:9:30

話題提供：石渡 未来さん 家族支援専門看護師
横浜市立市民病院 患者総合サポートセンター
豊田 好美さん 訪問看護認定看護師
旭訪問看護リハビリステーション

2020年冬、コロナ禍の感染対策や面会制限の中、看護職は、患者さんご家族の安全と安楽に細心の注意と関心を払い、日々奮闘していることと思います。今回は、第1回「入退院支援」をふまえ、現場の課題や介入の工夫について、参加者のみなさんと意見交換を行います。今回からの参加の方も大歓迎。全国からのご参加を、お待ちしております！

テーマ：「現場の工夫やこまりごとを共有しよう」

プログラム：10:05～10:50 話題提供者から
11:00～11:30 グループディスカッション
11:30～12:00 全体意見交換

会場：ZOOM (PC,スマホでの参加可能)

対象：病院看護師・訪問看護師・看護教員等 看護職の方

参加費：無料

定員：25名 先着順 要事前申し込み

申込先：下記よりURLもしくはQRコードにて申込下さい。

申込
URL

<http://urx.blue/wb0Z>



主催：ゆるく看護を語る会

共催：たねまき7

問合せ先：080-1152-7194

khirano54@gmail.com



Supported by
笹川保健財団
SASAKAWA
Health Foundation